

とある学校。人気の無い階段の踊り場。  
独りが好きな僕は、いつもここにいる。

時間はお昼。

いつものようにスマホ片手にコンビニで買った  
パンとジュースに手を伸ばす。

ゴカサ  
ゴシ

ス  
ッ  
ッ

そこに背後から女の子がやってきた。◆◆◆



おっすーw

やっぱりここにいたw





やっぱりここにいたw


彼女は小さい頃からの幼馴染。◇◇

友達のいない僕にとって、

学校で唯一話しかけてくるのがコイツだ。◇

無邪気で元気いっぱいで交友関係も広く、僕とは真逆な性格。◇◇

おっすーw



まだご飯食べてなかったの？  
もう昼休み終わっちゃうよ？

うるせーな・・  
だいたいここには  
来るなって言っただろ・・・  
誰かに見られたら変な噂が立って  
困るのはお前の方だぞ？



変な噂って？  
どういう事？

そりやお前・・・  
俺と・・・  
もういいよ、どうせお前みたいな  
子供に説明しても分かんねーし・・・



はあ・・・



あ、そうやってすぐ子供扱いする!

はいはいごめんごめん

てかいつもお昼パンだけで  
お腹空かないの？  
ちゃんと栄養取らないと  
大きくなれないよ？

余計なお世話だ  
お前みたいにくささん  
食べてたら太るしな



ドヤッ

フーン

〇〇と違って真面目に  
体育に部活もしてるから太りませーん  
ひよろがり長髪君と  
一緒にしないでくださーい

長髪は関係ないだろ



あとお前・・・  
階段に立たれると  
俺が振り向いたらパンツ見えるの  
分かってんのか？



ニヤニヤ

ニヤニヤ

え？もしかして  
私のパンツが見たいの？さいてーw  
ひよろがり長髪どすけべだーw

フツフツ

フツ

フツフツ

※  
こっちは注意して  
言っただけに……  
お前ときたら……  
※

男は一度痛い目を見させてやろうと振り向くと・・・

www

ww

あははw残念でしたーw  
運動服履いてますーw

あはははっ♡

お尻♡

ちゅっ



男は込み上げる怒りを抑えながらパンを口に入れる・・・

ちよつとからかったぐらいで  
怒らないでよw  
私達の仲でしょ？

www

あほほほ

もう分かったから  
教室に帰れって！

フゥゥ

ガサ





ごめんごめん！  
〇〇も、そろそろお昼休み  
終わるし早く食べなよ！  
じゃあね！

あはは…w



ほんと鬱陶しい奴。。

そう思いながらも嫌いにはなれない自分がある。

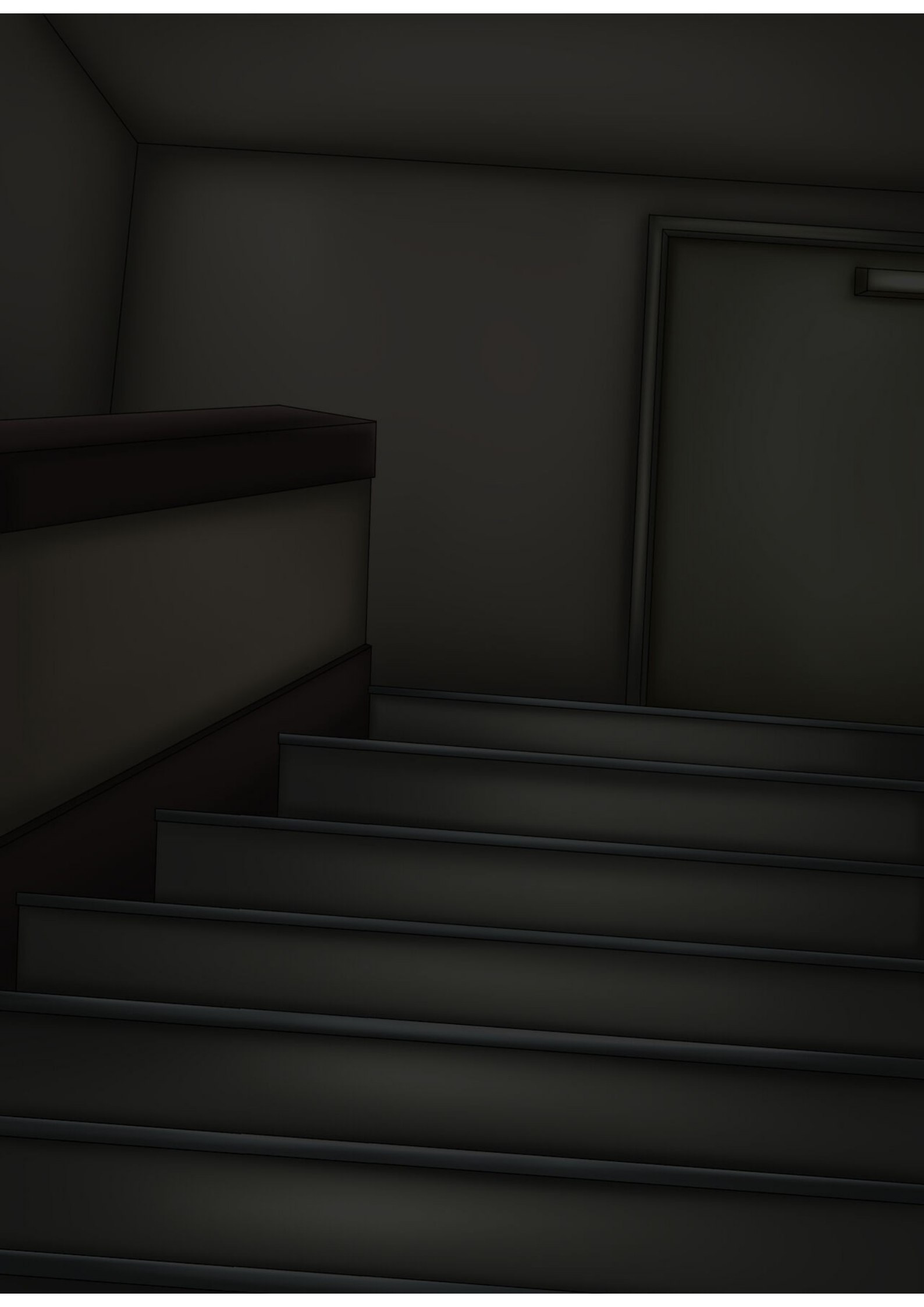
独りが好きと言いながらも、彼女がいつも会いに来て、

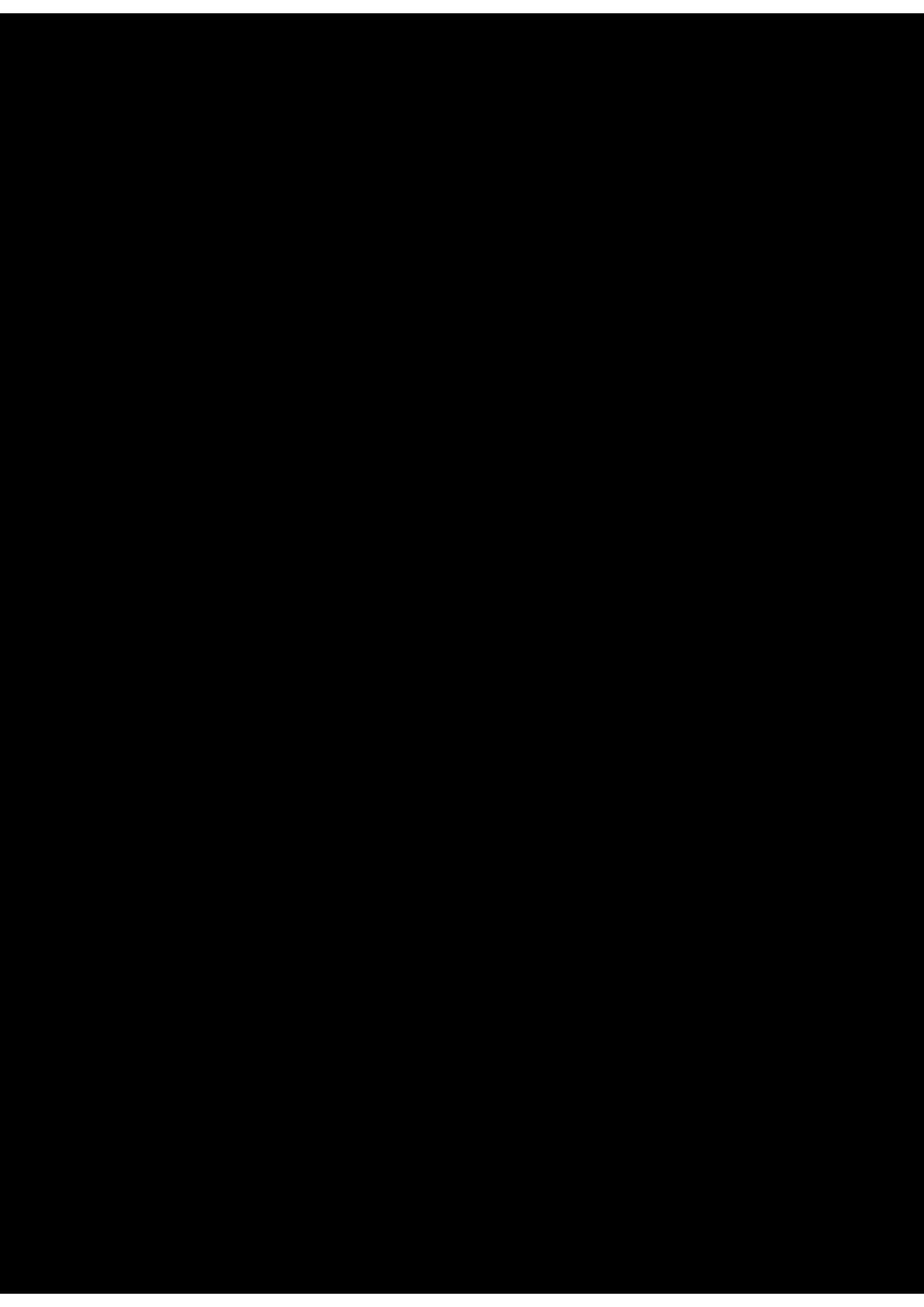
会話をすることに、心の何処かで楽しみにしている自分があるからだ。

ゴシガサ

僕は急いで口の中のパンをジュースで流し込むと教室へと戻った。

ったく……  
あいつのせいで  
もう授業始まっちゃうじゃねーか……









今日も学校楽しかったあ...

明日も〇〇をからかいに行かないと...







謎の物体が、彼女の傍へ降って落ちる。◆◆◆



スウ...

むにやむにや...

スウ...

ぽんぽん

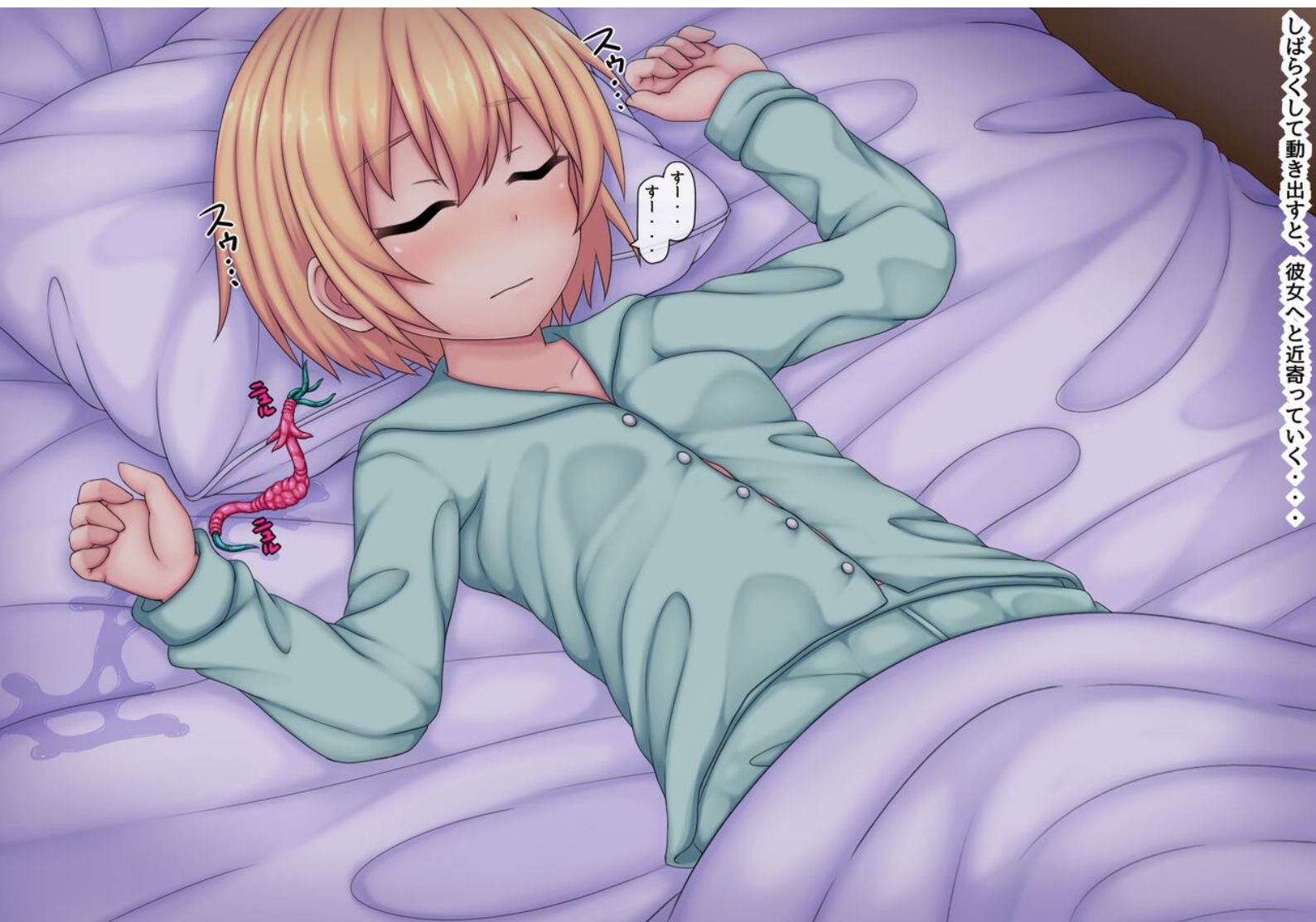


フム...

くかー...

身体の膨らんだ部分には丸い。卵のようなものが詰め込まれている。

トワッ...  
トワッ...



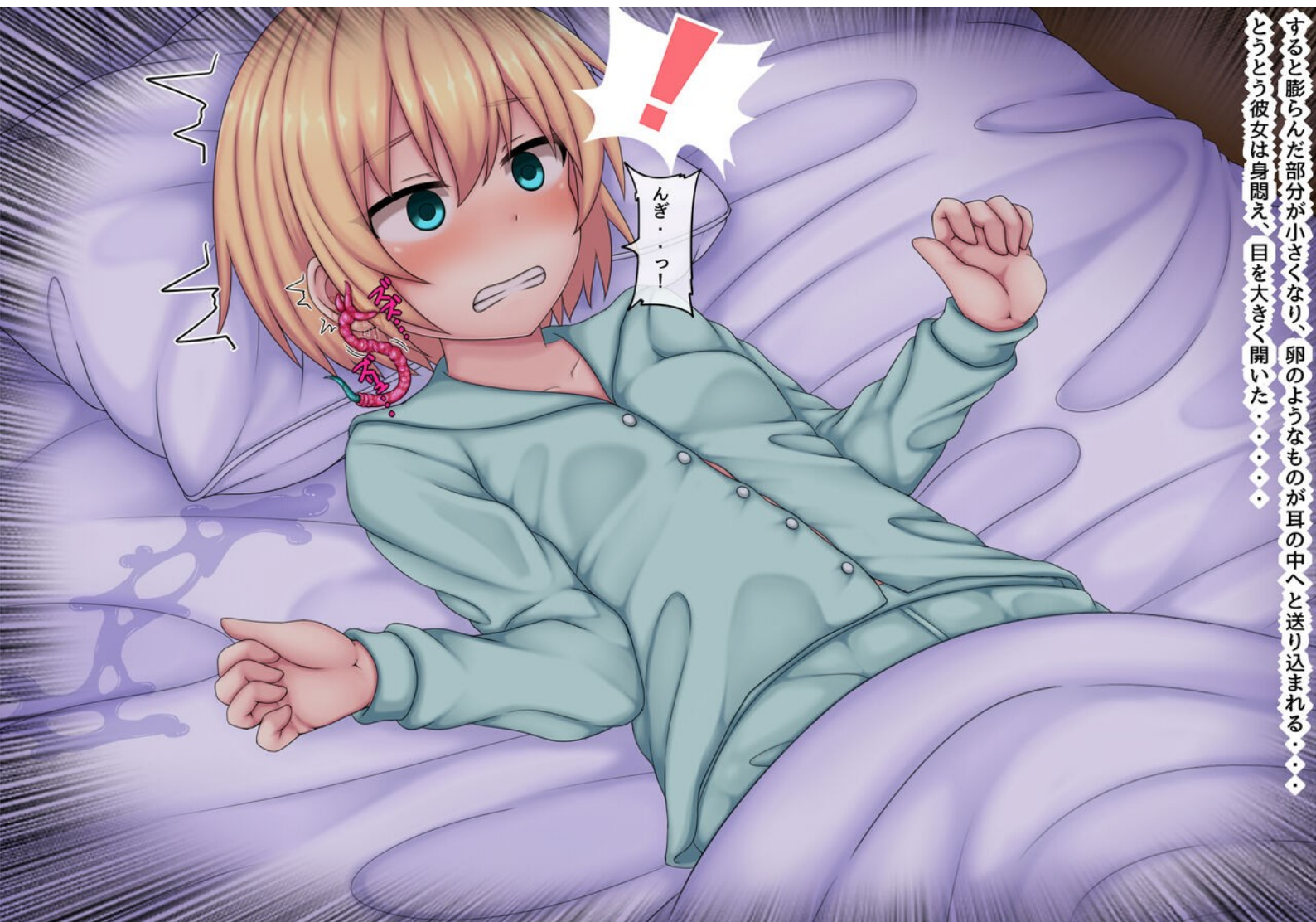
しばらくして動き出すと、彼女へと近寄っていく。



謎の生物は耳元へと近づくと、先端の触手を耳の中に潜り込ませる。彼女には違和感を感じるも、まだ目を覚まさない。

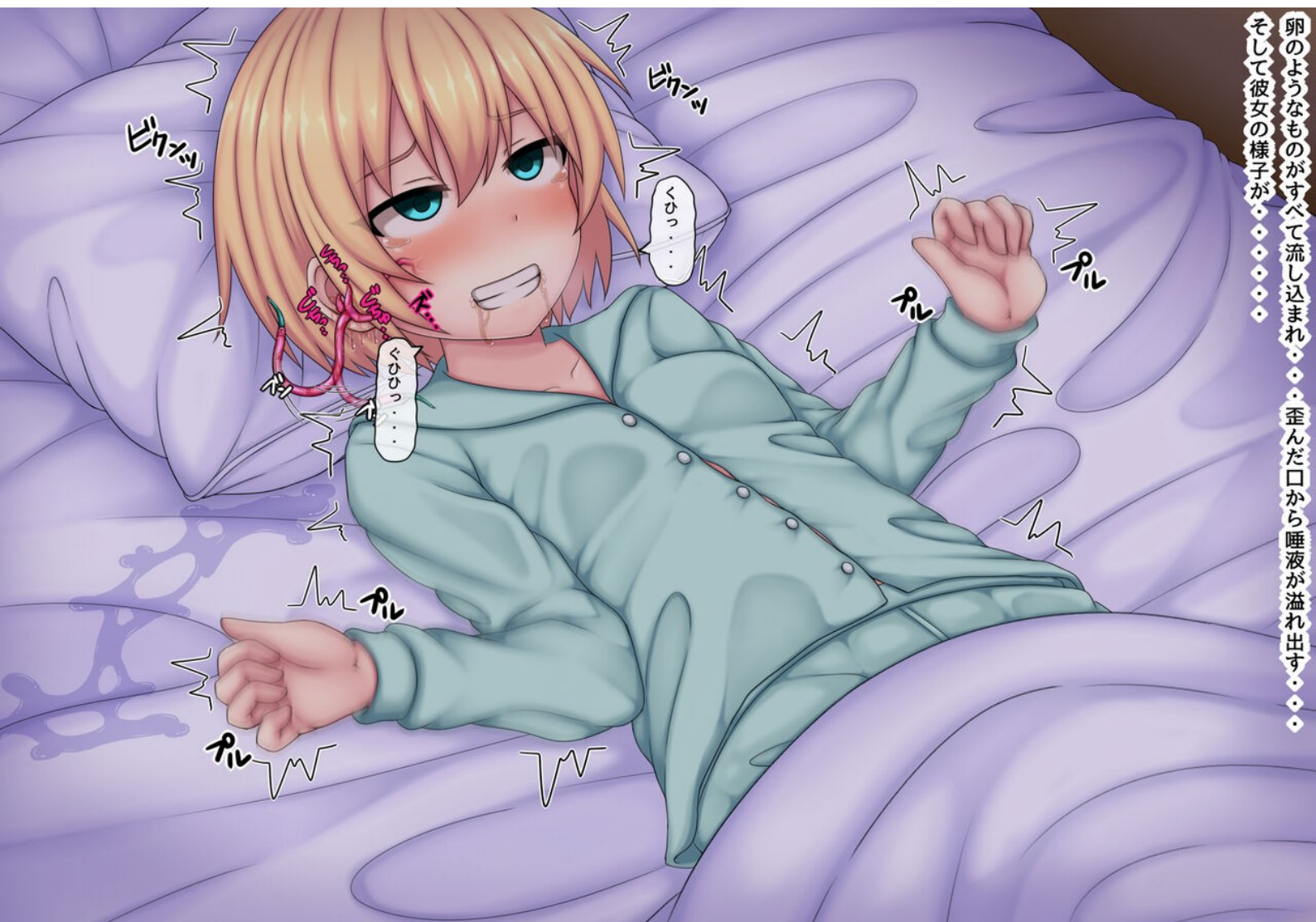


更に胴体部分も侵入すると、外れないようにするためか、彼女の耳と髪を掴む。◆◆



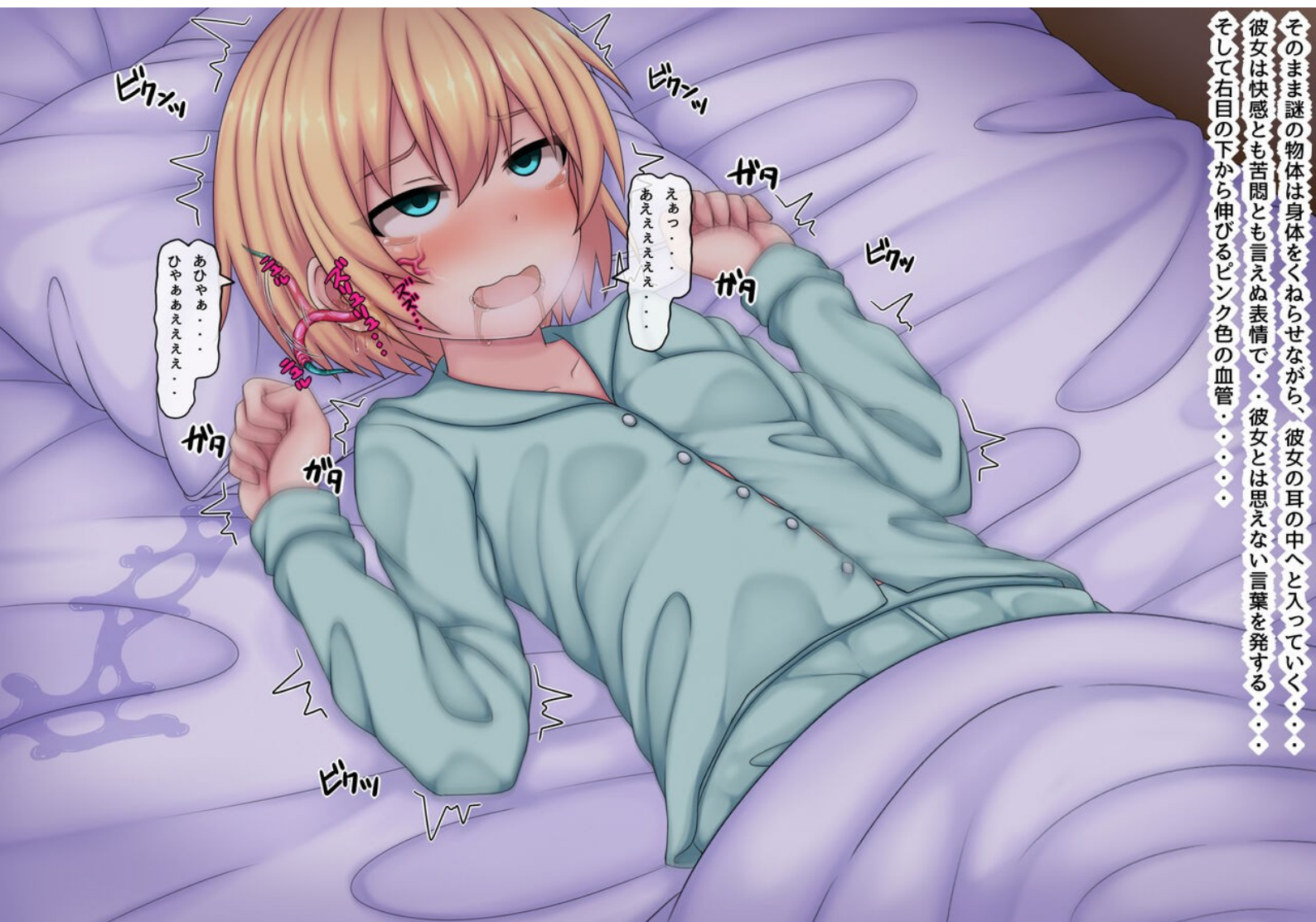
すると膨らんだ部分が小さくなり、卵のようなものが耳の中へと送り込まれる。  
とうとう彼女は身悶え、目を大きく開いた。◆◆◆





卵のようなものがすべて流し込まれ、歪んだ口から唾液が溢れ出す。  
そして彼女の様子が。

そのまま謎の物体は身体をくねらせながら、彼女の耳の中へと入っていく。  
彼女は快感とも苦悶とも言えぬ表情で、彼女とは思えない言葉を発する。  
そして右目の下から伸びるピンク色の血管。



あひやあ...  
ひやああええええ...

えあつ...  
あええええええ...





とうとう謎の物体は完全に彼女の耳から体内へと入っていった。そして伸びた血管は彼女の右目を同じ色へと変える。



しかしそれもつかの間・・・正気を失っていた彼女は、徐々に落ち着きを取り戻す・・・



そのまま彼女は、再び眠りについた。◇◇◇◇◇  
まるで、何も無かったかのように。◇◇◇◇◇



朝。彼女が勢いよく飛び起きる。



がしゅっ



なんか・・・  
すごい変な夢見たような・・・

昨晚の出来事を一切覚えていない彼女・・・  
あれは夢なのか・・・



ふぁー・・・眠い・・・  
早く寝たはずなんだけどなあ・・・

しかしあれは夢ではなく現実。◆◆◆

彼女は気付いていないだけで。◆◆

寄生した謎の生物は、彼女を少しずつ変えていく。◆◆◆

To Be Continued

ふぁー・眠い・  
早く寝たはずなんだけどなあ……

昨晚の出来事を一切覚えていない彼女……  
あれは夢なのか……































































